

骨切り術

PATIENT INFORMATION FACT SHEET

意味

骨切り術は、関節のアライメントを改善することで変形性股関節症の発症を回避または遅延させ、痛みを軽減し、機能を改善するために行われます。股関節温存手術における骨切り術は、股関節周囲の骨の切断や再配置を伴うもので、一般的に骨盤、大腿骨、脛骨を対象とします。以下に骨切りの種類を示す：

- ・ 寛骨臼周囲骨切り術(PAO)
- ・ 大腿骨近位部骨切り術
- ・ 脛骨遠位端骨切り術

これらの骨切り術は、本ウェブサイトの関連セクションで説明した以下の疾患を治療する際によく行われる

- ・ ペルテスの後遺症
- ・ 血管壊死 (AVN)
- ・ 脛骨大腿インピンジメント
- ・ 股関節形成不全／発達性股関節形成不全 (DDH)
- ・ 股関節不安定症
- ・ 寛骨臼インピンジメント (FAI)
- ・ 大腿骨と脛骨の回転異常

寛骨臼周囲骨切り術(PAO)

骨盤骨切り術の一種で、寛骨臼（股関節窩）の向きを変えることで、大腿骨頭のカバーリングを向上させるために用いられる。Ganz骨切り術やBernese骨切り術としても知られています。手術は全身麻酔で行われ、骨盤を数カ所[ss6] [MC7]切って寛骨臼（股関節窩）を解放します。その後、切断した骨をネジで固定し、ソケットのアライメントを変更することで、大腿骨頭をカバーできるようになります。これにより、股関節の安定性が回復し、機能が改善し、痛みが軽減され、最終的にはOAが発症するのを遅らせることができます。股関節に変形性股関節症の徴候が見られる場合は、人工股関節全置換術を行うことがあります。

人工股関節置換術を受けた後は、術後すぐにリハビリテーションを開始し、数ヶ月間、患者さんを通常の活動に復帰させることを最終目標とします。手術直後は歩行に松葉杖を使用する必要があり、骨癒合の初期段階である6～8週間は体重の負荷が制限されます。その間に理学療法を開始し、体重をかけない運動で筋力と動きを維持することができます。筋力はまだかなり衰えているため、筋力を完全に回復して完全な活動に戻るには最長で1年かかります。最初の数週間は、いくつかの動作を避ける必要がありますが、これは外科医や理学療法士が説明します。水治療設備が利用できる場合は、創傷が治癒してから、または外科医の指示のもと、水治療を開始することができる。



大腿骨近位部脱離

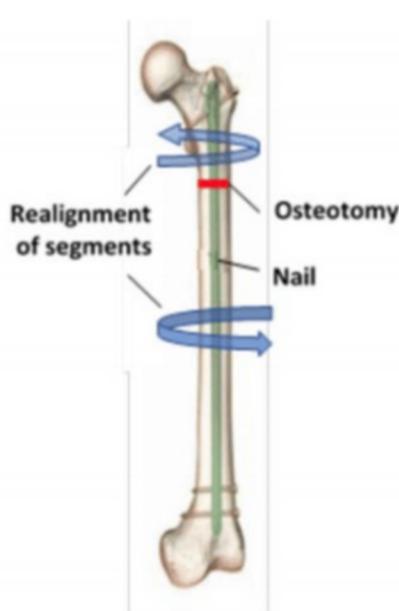
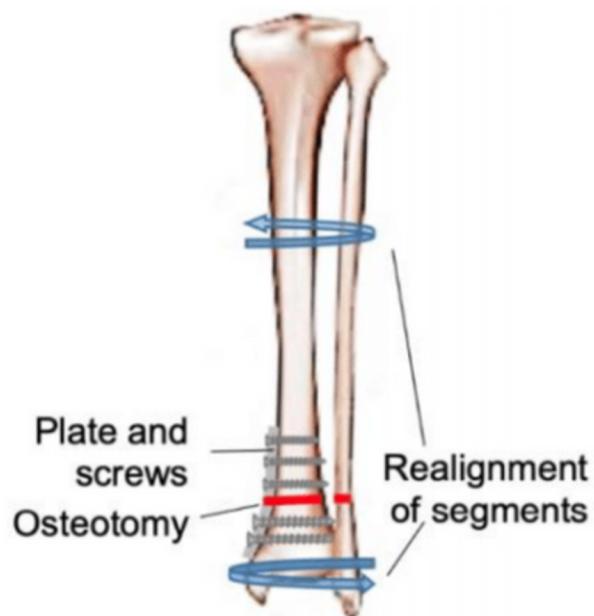
股関節および/または膝関節の症状を呈する患者の中には、大腿骨に回転変形（ねじれ）がある場合がある。大腿骨は過度にねじれたり（前方転位）、通常よりねじれが少なかつたり（後方転位）するため、股関節のバイオメカニクスに影響を与え、痛みや機能低下を引き起こすことがある。疼痛を軽減し、機能を改善し、関節変性の早期発症を回避するために、大腿骨近位部脱離骨切り術（または転子間近位骨切り術）が行われることがある。

この手術は通常、全身麻酔下で行われ、大腿骨の上部を切開し、大腿骨の上部を下部に対して回転させ、大腿骨頸部と骨頭の角度が正しくなるようにし、骨が治癒するまでの間、大腿骨の長さ方向に金属棒を挿入する（この金属棒は必ずしも取り外す必要はなく、そのままでもよい）。

大腿骨近位部脱離骨切り術後は、患者の目的や目標、骨癒合の速度にもよりますが、回復と骨癒合に6~12ヶ月を要するため、長いリハビリ期間が必要となります。最初の数週間は、患脚の体重負荷が制限されることがあります。松葉杖歩行が必要となります。これは治療した外科医が確認する。特定のスポーツ活動を再開する前に、骨が完全に治癒するまで待つ必要はないかもしれません。

遠位脛骨剥離術

股関節の痛みは、すねの骨（脛骨）の異常なねじれ（捻転）によって、内反足（足が内側を向く）や外反足（足が外側を向く）になることで起こります。足を前方に向けながら歩いたり、走ったり、その他の動作をするために必要な力が大きくなるため、膝や股関節の痛みにつながることがあります。このようなねじれは股関節のアライメントを崩す原因となるため、骨切りを伴う外科手術が行われることがあります。この手術は、アライメントを正常に戻すことで、機能を改善し、痛みを軽減することを目的としています。



全身麻酔下で行われる手術では、脛骨と腓骨の下部、足首のすぐ上を骨切り（切断）します。すねの骨を回転させてアライメントを改善します。その後、チタンプレートとスクリューを使って骨を安定させます。この金属は取り外す必要はなく、そのまま使用することも可能です。ギプスは通常2週間程度装着され、その間は足に体重をかけることはできません。松葉杖を使っての移動が必要になります。2週間後に創傷と骨の治癒が評価されれば、外科医と理学療法士の指導のもと、徐々に通常の歩行に戻ることが可能です。

For further information about ISHA - The Hip Preservation Society, how to find an experienced hip preservation surgeon or physiotherapist, or to make a donation, visit www.ishasoc.net. Charity registered in England and Wales, number 199165.